

特 273

839

孝行粉引歌

かみらはぬ風に柳の言の葉は
たゞあいぐといふが孝行

孝といふ字のおもひげみれば
老をたすくるその子のすがた



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特 273
839

施本の大利益あることを同志諸君に通告す

蓮如上人の御教化にも四海の信心の人は皆兄弟との仰せもわれは友同行の御方へ施本の必要なる事を御勸め申しませ今より十六ヶ年前に有名なる藤島了穩師に耶蘇教無道理並に小國害論の小冊子の著述を願全に百萬冊餘も本院へ施本致したそれ故全國有志者より五千何百圓の喜捨金もありました事もありませ今日となりてわはや耶蘇教の道理にかなわぬ事はとなたも御承知でありませから今よりは我佛教の本城を確固し我人の信心御相續ならしめ報恩の行をつとめませる様に導く書物の必要なる時節となりましたに付て祖聖師人報恩講御取越の法席や又は親族の法事營みの時に於て御供養と唱へて赤飯或は饅頭杯の類を参詣の諸人へ分ち與へる習慣は京どなく田舎となく何れの地にも致そ事あるが食物はかりではのこり多ひではありませんか中興様の毎月兩度の御文にたい酒飯茶かんとはかりにてみなく退散せりされは佛法の本意にはしかるへからさる次第ありと御氣付もあれば同じことならは其場限りは御供養ではなくて見ればみるほどあじの御供養に致したきものでありませ幸に本院にて有志の方が御用に適當した小冊子則ち赤飯代や饅頭代位ひて何十部でも何百部でもありがたひ施本の物が澤山に拵へてありませゆへ代金と共に御申込あれば極々廉價で何時にても送りますゆへ是迄の習慣を改めて一の小冊子を参詣人へ分ち與へられは其場限りにも非そ一人の喜びにもあらせ展轉に之を讀み小き書物を貰ふて大きな功德を頂き少し遣ひものして多くの利益を興へる一大大好方便なきは有志信徒の方々は深く心を用ひられて舊慣的の御供養を改め時勢的の御供養を改良あらん事を御せよめ申しませ

京都 顯道書院施本會

孝行粉引歌

人の行ひいろくあれど。孝の一ツにいくいな。教へまもりて孝行すれば。我子みならひまた孝ぞ。郭巨ばかりが孝行ものか。いまもこのねの釜ほりやれ。孝は大地の水にもとゆる。美濃に養老さけのぬど。産てたまはるその苦みは。四苦と八苦のいのちがけ。うむてそのとき片輪でなくば。親はよろこびいかばかり。みとせ生肉のき血をいぼり。吞せたまひーその御恩。寢間のぬれーはその身にうけて。ぬくひ我あと子にねさせ。ことに襁褓の三年のけがれ。世話とおもはせ手にかけて。痘瘡麻疹とつらふ時は。幾夜介抱おもひーれ。貧乏申から手習せせて。目とばあきてくだされて。餌とばはこび

特 273
839

施本の大利益あることを同志諸君に注告す

蓮如上人の御教化にも四海の信心の人は曾兄弟との仰せもあれは友同行の御方へ施本の必要なる事を御勸め申しませ今より十六ヶ年前に有名なる藤島了徳師に耶蘇教無道理並お國害論の小冊子の著述を願全國に百萬冊餘も本院方施本致したそれ故全國有志者より五千何百圓の喜捨金もありました事もありませその今日となりてわはや耶蘇教の道理にかなわぬ事はどなたも御承知でありませから今よりは我佛敎の本城を確固あし我人の信心御相續ならしめ報恩の行をつとめませる様に導く書物の必要なる時節となりましたに付て祖聖師人報恩講御取越の法席や又は親族の法事營みの時に於て御供養と唱へて赤飯或は饅頭杯の類を参詣の諸人へ分ち與へる習慣は京どなく田舎となく何れの地にも致そ事あるが食物はかりではのこり多ひではありませんか中興様の毎月兩度の御文にたい酒飯茶かんとはかりにてみなく退散せりされは佛法の本意にはしかるへからさる次第ありと御氣付もあれば同じことならば其場限りは御供養ではなくて見ればみるほどあじの御供養に致したきものでありませ幸に本院にて有志の方が御用に適當した小冊子則ち赤飯代や饅頭代位ひて何十部でも何百部でもありがたひ施本の物が澤山に持へてありませゆへ代金と共に御申込あれば極々廉價で何時にても送りますゆへ是迄の習慣を改めて一の小冊子を参詣人へ分ち與へられれば其場限りにも非そ一人の喜ひにもあらん展轉に之を讀み小き書物を貰ふて大きな功德を頂き少し遣ひものして多くの利益を興へる一大大好方便なきは有志信徒の方々は深く心を用ひられて舊慣的の御供養を改め時勢的の御供養を改良あらん事を御せよめ申しませ

京都 顯道書院施本會

● 孝行粉引歌

人の行ひいろくあれど。孝の一ツにいくいな。教へて孝行すれば。我子みならひまた孝ぞ。郭巨ばかりが孝行ものか。いまもこのねの釜ほりやれ。孝は大地の水にもとぬる。美濃に養老さけのゑど。産てたまはるその苦みは。四苦と八苦のいのちがけ。うむてそのとき片輪でなくば。親はよろこびいかばかり。みとせ生肉のき血と一ぼり。吞せたまひーその御恩。寝間のぬれーはその身にうけて。ぬくひ我あを子にねさせ。ことに襁褓の三年のけがれ。世話とおもは是手にかけて。痘瘡麻疹とづらふ時は。幾夜介抱おもひーれ。貧乏中から手習させて。目とばらるてくだされて。餌とばはこび



て我子にやせる。つばめみて一親の恩。父と母とをかたにぞおいて。須彌をめぐれと思つきぞ。足を折て羊の乳のむ。鳩よ三枝の禮もあり。孝がかければ鳥にもおとる。せめてこれらか孝行を。父は外宮に母は内宮。これぞままとのいき神よ。唐の伯瑜た、かれながら。いたふかいのでかなしんだ。嫁とよぶなりや親御にまかせ。夫が天理に叶ぞや。ぬい手足でなす孝行を。嫁にさせてぞ機嫌とれ。親のあふせは只あいくと。返事をま、用さきやれ。よーや無理をばいはる、とても。幼ひときどんか無理。かるひよきも親御にさせよ。かかひ月日か今日あすも。親の御好はこちからすゝめ。先に催促ないうちに。親がいまさば遠行せざと。あさなやふかに機

嫌とれ。おやの前ては我とーかくせ。年をかたら老無事かたれ。此身ひきまにうまけけもらひ。もとの無疵てくらすが孝。灸の疵さへ不孝ときけど。無事にかるのがまふーわけ。親の長々わづらひあらば。日々に介抱いやまーて。むきひ不淨を手にかけるとの。させて給る身の冥加。博奕うつ子は不孝の鼠。家も藏をもくひやぶる。若しも處に白波いらば。博奕うつからうたがはる。猫鼠に犬夜をまもる。蜘蛛はまどにて糸ーごと。兎角はたらけ下和の石も。みあげば後に玉となる。おやを泣せる不孝のもれは。それが五逆のつゝなるぞ。不孝大地をあゆめば地神。つむりがさけるとかかーまる。我子ともちて親の恩ーる。神祭すぎての酢桶よ。我名をあげて親とーら

すが。孝の終とつたひける。主につかへて親や一なへば。親も主人
におんがある。主の親かり君なり神よ。ぬすむまひぞや主の目と。
武士はまさか命をすてる。なぜに身をすて働かぬと。かく働け身
もまこやかに。惠美須様さへたすきがけ。人をつかひ手足となり
て。むごひ主人と思われな。奉公するは主人のためと。おもふまひ
ぞや我ためよ。夫もつから獨りを大事。たれが筭二本さす。夫ひと
りに筭ひとつ。常につむりにいたゞけよ。子供あるなりや妻いささ
と。妻がいぬれば子が難儀。夫婦いさかひ貧乏れたねよ。中によ
ひのが福のたね。可愛まが子にそはする嫁と。にくむ心がそれがお
に。もしも姑につかへぬ嫁も。鬼のたまごのなりかゝり。繼子に

むえをまごの愚痴よ。過去に因縁あまばこそ。穗綿いれたるため
もあれば。聞てたまなめ身の冥加。義理ある親に孝行つくせ。この
世あの世の仕合よ。おやにつかへて孝行すれば。神や佛にまもらる
。あゝがたゝば負てもまわれ。御法きかすは二世の孝。親をす
ゝめて極樂までも。御供まふまが眞の孝。石や瓦も崑崙山へ。なげ
りやたちまもち金と成。不孝無道もこの歌よみて。どふぞ孝者となら
ーやんせ。

身ごころく親の言葉とおもくして

ものやはらかにわたくまわれよ

美濃國不破郡垂井町三百八十八番地專精寺

著者 正聚房 僧 純

● 兒童教訓短歌

夫人と生るゝ者は孝行の。道を初めに學ぶべし。親に不孝のともか
らは。鳥獸にも劣れりと。古人は賤しめ置れたり。そ乃孝行のおも
むきは。親れこゝろをよるこばせ。苦勞をかけじと慎みて。遊所徘徊遊山など。大酒口論博奕は。恐れても猶おそるべし。すべて政府
乃御定を。背かぬ様に相まもり。義理の道にハ緩みなく。身をおも
むるが孝行と。朝早く起き遅寝て。それく家業おこたらず。讀書
算術習字をも。心にとめてはけむべし。身を修むるの肝要は。身の
程を知り上を見す。足ることを知り堪忍し。常の心に慈悲深く。年
また人を輕しめず。兄をうやまひ弟を。惠みて親類睦ましく。惡し

き人には遠ざかり。益ある友を擇ぶべし。婚禮するにハ氏素性。貧
富容儀にかゝわらば。おやに孝行ある人を。求めてやと乃妻とせよ
。普請諸道具さるも乃は。身の分限をかへり見て。奢りをつゝみ
儉約と。かゝたけ借財せぬ様に。心にかけて道ならぬ。立身出世利
得とも。望みほしがる事なかれ。我に利あれば餘の人に。害あるこ
とゝりぬべし。人と契約せしことは。かならば變ざる事なかれ。
うかつに約束すべからば。恩をうけては忘るまじ。人にめぐまば恩
にすな。まがあやまちをいふ人は。たがら賜はる者よりも。あかめ
したひて過ちを。すぐに改めをすべし。善事さしては身につとめ。
惡事を見ては身を正し。たわれごとにも虚いとせ。酒と色とを敵と

し。殺生せつじやうごとはかたくせぞ。人の善事ぜんじはほめそや。人の惡事あくじはかたらぞに。惡事あくじと一らばかや蔭かげで。語ことばをつくと諫いさめむべと。女おんなは嫁入よめいりする先の。とうとめうとを父母ちちははと。思おもふて篤あつく孝行かうかう。悋りん氣き嫉しつ妬ねたをつゝみて。夫おつとに貞節ていせつおこたるな。言葉ことばやさしく心こころをば。金石きんせきよりも堅かたくもて。縫針ぬいはり仕事じこをこたらぞ。煮燒にたき野菜やさいのことまでも。自身みづかにつと免たが高たかぶらぞ。も一先妻せんさいの子こありかば。おろそかに此こゝな幼子おつかこと。後あとにのこちて行く人の。永ながき別わかれれ悲かなしさを。いか斗はつぞと思おもひやり。まことの母ははにかり變かはり。深かかくあられみ育そだつべと。おや子こ兄弟けいだいよめと。うと。夫婦ふうふの間あひだやわらぎて。怒いらり罵ののし聲こゑなきは。いとよめて度事たぎことそがた。稚わかき時ときは二親ふたおやを。志こころば志こころが中うちも離はなれじと。志こころたひーものを妻つま

や子の。愛あいに引ひれていつとなく。うとくなり行いうたてまよ。わが子こを憐あはれむ心こころもて。おやの慈あはれをも推おし量はかり。子こをもつ人は分わかてなと。父母ちちははに孝行かうかうはげむべし。その孝行かうかうのこゝろこそ。君きみにつかへて忠ちゆうとかり。我身わがみを忘わすれ一ひとすぢに。かげでの事ことを愼つしみて。友ともはうばいと睦なごましく。頭支あたまし配ばいよへつらはぞ。狐疑こぎの心こころを出いさるに。操みさほくづきぞ正直しやうじきと。常つねの心こころとまもるべし。も一父母ちちははや御主人ごしゆじんが。氣き隨ま氣きまゝに愚おろかに。譯わけなく己おのれとにくむとも。己おのれが忠義ちゆうぎの足たらねばと。みづから責せめて露つゆほども。親おやや主人しゆじんをうらむなよ。親おやに孝かうあり御主人ごしゆじんに。まことを盡つくし仕つかふれば。其身そのみれ善事ぜんじたねとなり。子孫しそん繁昌はんぢやうするぞかた。子ことよく育そだてあくるには。常々つねづね親おやのなげ業わざが。善よれば子こも善よくなる者もの

ぞ。いかにほど厳しく叱りても。親の身持があけければ。自と小供も不
埒なり。とはいへたとへ父母が。不道放埒なりとも。子は眞似と
せず身を修め。おりを見合せ意見して。正き道よきそひいれ。親
に悪名とらせぬよ。又父母のなきのちも。いますか如く仕ふるを。誠
乃孝子といふぞが。兩親先祖の追善は。その程くくいたがひて。
人目とわざらす眞實に。隱徳施行活物の。命を助け放つべ。おや
の存命せし時に。何ほど孝行なりとも。死しての後の追善を。おろ
そかにする輩は。孝をつくすにあらざとい。八幡宮の託宣を。遠き
を追ひて懇ろに。親に孝行ある人は。神も佛も憐れて。常よ守らせ
賜ふゆゑ。その身も安く子孫まで。餘慶を受くる事ぞが。神明佛

陀聖賢の。教を守りて孝行の。道と一期の勤めとらせよ。いろいろ主人

●親に孝をつくすべき事

誰も親に孝と盡すことと。悪い事と思ぬ者はなく。みな孝行をなさ
んと。思ひながら。兎角に孝行の。出来ぬものなり。故に予も。何
人にも。孝行の事を勧めしが。若し孝行が六かゝいと。思ひながら。ま
づ不孝とせぬやうに。心懸くべし。不孝とせぬことが。首尾よく成
た遂らるゝと待て。一層進んで。孝行をすべし。或ひは不孝でなけ
れば。孝行からんと。思ふ者も。あるべけれど。之を噓へて云は
人の物を取らぬと云は。他を害せぬまでなり。人に物を與ふると云
は。慈悲れ行なり。之を以て知るべし。若し孝行が六かゝければ。

兎も角も不孝乃行ひ。おきやうすべー

●禍福は自から招く

人の愛をうくるも。惡みを受るも。みも自ら招くも成なり。故に孟子は自ら毀ちて後ち。人これを毀ち。自あなどりて後ち。人これを護るといへり。これ千古の格言といふべし。これを試むるよ。鏡を以てせば。明らかに知らるべし。若し怒りて鏡に向へば。影必怒り。笑て向へば影も亦笑ふ。拳を振り揚げ撲たんとすれば。影も拳を揚げて撲たんとす。吾笑へば影も亦笑ぬが如く。人の拳を揚て打りしる時に。吾笑ひを含みてこれに對れば。其人も必怒拳をおさめて笑ふべきなり。されば人のあはきよあらざらば。吾身に不行届

きの所あるより。人の惡みを受て誹りを受け。人のなまけうもくならなり。嫁入とたる者のむことうとに嫌はれ。家にもすみにくく。ふさふさからぬ故あるにこそ。おどいふは淺間一きことなり。吾身の足らざるを耻て。勤むべきとつとめ。行ふべきを行ひ。心たし。くば。たとひよからぬむことうとたりとも。自然に吾身に化せられて。正しき人となるべし。然らざらば己れたらからざれば。いつくよ行きても。やすきとなかるべし。あるたとへ物語に。昔と泉といふ鳥(或は猫鳥ともいふ)惡き聲の鳥かりの飛び來るに。鳩ゆきひいていはく。なんぢいづくに行く。泉のいづく我ひがの方へうつらんとす。鳩のいはく何ゆへぞ。泉のいはく里人みな吾鳴く聲をに

くむがうたてきに。すみ所をかへんと思ふなりと。鳩のいはくなん
ぢ鳴く聲をかへてこそよからめ。聲をかへてはたとひ東にうつれ
るも。またかんだのこゑをにくまんと。あまげりつるとるや。古歌
に「おみなへ花の心のあたなれば秋に乃みこそあひわたりけれ」
とよみけるやうに。人にあかる、心をさせば、行くさきもくも
みかあるべきなま(石村桐陰居士)

●佛遺教經に曰く。汝等比丘若し精進せば。則ち事難き者無し。是
故に汝等。當に勤めて精進すべし。譬へば小水も常に流る、ときは
則ち能く。石を穿つが如しと。
水は實に。柔らかなるものなれども。處々の雨滴は。何時の間にか

受くる所の石を。深く穿てり。是は人々の見て知る所なり。左れど
も何時。斯くの如く穿ちたりやと聞かば。誰も之を知るものハあら
ど。滴々相重なりて。遂に斯の如くなれるものなり。小兒が字を習
ふも之に同じ。何時よく書ける様に。かりやと聞けば。之を書く
兒供も。其の書けるやうになりし。時日を知ることなし。又赤子が
徐々歩き初めるときは。今日一步。明日二歩と歩き初め。遂は走
り廻るやうに成に至れり。是亦何日に。よく歩き出したりやと云
ふ。其答へよ迷惑すべし。物事日を積み。年を重ねるごとに。能く
熟し得ること。此の水れ石を穿つに同じ。左れば人々。其習ふ所に
就て。撓まど勉強すべし。何事が成らざることあらん。

明治廿七年三月十八日
 明治廿七年三月廿二日

編輯者兼
 發行者

松田甚左衛門

京都市油小路通花屋町上ル
 西若松町三十四番戸

印刷者

瀬戸清次郎

大阪市西區朝下通一丁目
 四十八番屋敷一成舎

施主

發行所

京都市油小路
 通花屋町上ル

顯道書院

存覺法語鈔	十種用心	求めよ哉	子乃りたしおり	眞理教育	弘中唯見師述	歡喜	佛教	休道歌集	一人段略解	新年之法話	勤行正信偈和讚	施本適當ノ書類
一冊二錢 六冊包稅二錢	一冊二錢 六冊包稅二錢	一冊二錢 六冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 五冊包稅二錢	一冊二錢 四冊包稅二錢	一冊三錢 三冊包稅二錢	定價二錢 六冊包稅二錢	
法	因果のたみ	安心問答	新年之法話	新年之吉語	新年之法話	法乃す	信后相續	新年の佛法	攻悔文法話	護摩釋子	渡世乃かみ	
一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 七冊包稅二錢	一冊一錢 七冊包稅二錢	一冊一錢 七冊包稅二錢	一冊一錢 七冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	一冊一錢 八冊包稅二錢	

明治廿七年三月十八日
明治廿七年三月廿二日

編輯者兼
發行者

松田甚左衛門

京都市油小路通花屋町上ル
西若松町三十四番戸

印刷者

瀬戸清次郎

大坂市西區朝下通一丁目
四十八番屋敷一成舎

施主

發行所

京都市油小路
通花屋町上ル

顯道書院

存 行 念 佛 十 種 法 語 鈔	求 弘 中 唯 見 師 述 め よ 哉	子 眞 理 教 育 の お り	眞 理 教 育 の お り	和 佛 教 演 說	歡 喜 之 詞	一 休 道 歌 集	經 世 人 段 略 解	新 年 之 法 話	勤 行 正 信 偈 和 讚	兼 應 講 並 三 佛 事 法 會 演 說 等 ノ 席 ニ テ 全 語 ノ 著 人 ニ	施 本 適 當 ノ 書 類
一冊二錢 六册包稅二錢	一冊二錢 六册包稅二錢	一冊三錢 五册包稅二錢	一冊三錢 五册包稅二錢	一冊二錢 五册包稅二錢	一冊二錢 五册包稅二錢	一冊二錢 五册包稅二錢	一冊二錢 四册包稅二錢	一冊三錢 三册包稅二錢	定價二錢 六册包稅二錢		
法 の か た み 全	因 果 の か た み 全	安 心 問 答	博 多 心 之 花	新 年 之 吉 語	法 乃 初 年	信 后 相 續	新 年 の 佛 法	攻 悔 文 法 話	法 護 摩 釋 子	佛 渡 世 乃 か た み	
一冊一錢 八册包稅二錢	一冊一錢 八册包稅二錢	一冊一錢 八册包稅二錢	一冊一錢 五册包稅二錢	一冊一錢 八册包稅二錢	一冊一錢 七册包稅二錢	一冊一錢 七册包稅二錢	一冊一錢 七册包稅二錢	一冊一錢 七册包稅二錢	一冊一錢 八册包稅二錢	一冊一錢 八册包稅二錢	

石山法 <small>道西坊純師述</small> の動 <small>一冊一錢</small>	石山法 <small>道西坊純師述</small> の歌 <small>八冊定稅二錢</small>	法の道 <small>坊純師述</small> 一 <small>全</small>	報恩 <small>七不略</small> の <small>思議</small> かゞみ <small>全</small>	縁 <small>七不略</small> 記 <small>全</small>	辨圓 <small>縁を略</small> 略 <small>全</small>	縁 <small>縁を略</small> 記 <small>全</small>	法の <small>僧純師述</small> 近道 <small>全</small>	家の <small>白隠師述</small> 相續 <small>全</small>	孝行 <small>上井佳師述</small> 粉引 <small>全</small>	轉法 <small>見眞師述</small> 捷徑 <small>全</small>	降誕 <small>大眞師述</small> の <small>全</small>
小泉了齋師著	念佛渡世 <small>行者赤松連城師著</small> 問答 <small>一冊一錢</small>	婦徳 <small>九樹師述</small> の網領 <small>全</small>	見眞 <small>大眞師述</small> の歌 <small>全</small>	東漸 <small>佛敎</small> の唱歌 <small>全</small>	小佛 <small>小野島行藏師著</small> 問答 <small>全</small>	領解 <small>一旅本類百冊以上ハ定價ヨリ相當ノ割引致シ差上可申候也追テ三百冊以上ハ定價ノ方ニ限リ前以テ施主姓名通知相成候ハハ末尾ニ記載仕候凡テ代價前金ニ非サレハ御送附ニ及ヒ難ク候</small> 文諭 <small>全</small>	御照會 <small>一御照會ノ節ハ必ず往復端書或ハ郵券封入之上御申越有之度此段前以テ申上候也</small> 宛テ送金 <small>宛テ送金之節為換ハ六條郵便局ニ戻リ込ミノ一</small> 注意 <small>注意ノ事</small>	注意 <small>注意ノ事</small>	注意 <small>注意ノ事</small>	注意 <small>注意ノ事</small>	注意 <small>注意ノ事</small>
京都市下京區油小路通	顯道書院	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通	京都市下京區油小路通

終